

## 2008年度業務報告

前理事長

碓 氷 裕 彦



皆さん、こんにちは。2008年度理事長をさせていただきました、株式会社デンソーの碓氷裕彦です。

お手元の資料に沿って、かいつまんで説明したいと思います。2008年度の業務報告が2つあると思いますが、そのうちの「要約版」を使います。

まず活動方針で、昨年この場で知財協のロードマップをつくりたいと申しました。ロードマップというよりは、知財協は何をやってきて何をやるべきかということで、これに「まほろばプラン」という名前をつけました。今までやってきたことをまとめますと、1つは、経営に資する知財活動の指針をつくりたい、お役に立ちたいということです。もう1つは、ユーザーのためになる、ユーザーフレンドリーな特許制度の実現に向けて、お役に立ちたいということです。そして、3つ目が知財人材の育成です。そして、知財人材育成には、知的財産部員の専門能力向上及び技術者の知財能力向上があるということを説明させていただきました。

その線に沿って、2008年度はいろいろな活動をしてまいりました。活動を主に担ったのは、専門委員会と政策プロジェクトです。専門委員会は、ここに書いてありますように、20の専門委員会、248社の方、メンバーでいえば797人に参加していただきました。政策プロジェクトは、ここに書いてある9のプロジェクトです。

政策プロジェクトの前に、まずトピックとしまして、1ページの一番下にある経営者交流会を行いました。これは一昨年度から行われていますが、昨年度、異業種の経営者を囲む会ということで、知財協の会長、副会長の皆様を囲んで経営者が思う知財活動とは何か、それに応えるには知財はどういう活動をすればいいのかと言う観点で、いろいろ議論しました。

次の2ページ目に行きまして、その経営者を囲む会をさらに進化した形になるのですが、野間口会長と意見交換会を行いました。会長は昨年で2年目ということもあって、知財協のことを本当によくご理解いただいております。野間口会長みずから、特に知財を担当している若い人に、経営者はこう思うという話をさせていただきました。この内容は、知財協のホームページ、及び会誌に載っていると思います。

2ページの下の方にある活動報告ですが、先ほども中山さんから報告がありましたように、第8回のJIPAのシンポジウムを京都で1月に行いました。時節柄、しかも初めての関西ということで参加者が少ないのではと随分心配しましたが、皆様のご協力のおかげで、かつ、私が言うのもおかしいかもしれませんが、準備が良く、またテーマも良かった為、盛況のうちに終わることができました。

次のページ、3ページですが、これは職務発明のプロジェクトということです。特許法35条がこれでいいのかということとをずっと検討して来まして、一応、区切りをつけました。知財協としては、現状の35条に反対です。これをしかるべき時期にぜひ改訂したいと思っております。提言はまとめて出しております。

次に、三極ユーザー会議。これも先ほど中山さんが説明されましたが、今年は6月に東京で行います。去年は5月と11月にヨーロッパの、ベルギーのブラッセルとオランダのハーグで行いました。細かいところは既に各所で報告しておりますが、世界の制度調和、ユーザーフレンドリーな制度調和に向けて、一步一步、少しずつではありますが着実に進展していると思えます。

日中の企業連携、これはいかにも知財協らしい活動だと思います。中国に対して一方的に「こうしてほしい」と言うのではなく、中国にも知財協をつくろうとまでは言いませんが、中国で知財活動をしている人に日本の知財活動と同じ目線で話をしようとしております。この活動も何年間か続いております。こういう草の根活動が大事だと思っております。

4ページに行きます。4ページはアジア戦略会議。これも先ほど中山さんからご説明いただきましたIIPPF、これは官民共同ですが、その実体的な推進役として知財協は随分力になってきたと思っております。アジアでの活動は、1番がIIPPFで、2番として、東アジア対応があります。この活動でも知財協が頼りにされていると思えます。各国が法制度を変えたいというときに、知財協に意見を聞きにきます。それに対し、知財協は、日本のユーザーはこう思うというパブリックコメントを出しております。3番目として、東南アジアとも定期的に意見交換を進めております。

次に、5ページの一番下の知的財産支援関連ですが、これは経営に資する知財活動ということで、実践されている各社の良い面をまとめて、ベストプラクティスの横展開ということで情報を発信するようにしております。

6ページに行きますが、時間があまりないですね。あとは、適正エンフォースメント。これは先ほど中山さんが言われましたとおりです。今後、特許法改正に向けてこの話は続くと思えます。

人材育成も続いておりますが、あと特徴的なところで、9番のJIPAの70周年記念プロジェクトがあります。昨年、私は良い時期に対応させていただけたと思えます。去年は知財協——元は重陽会、それから日本特許協会と名前を変えましたが、1939年発足のこの協会ができて70年ということでした。それ以前は、50年史ということでそれまでの歴史がまとまっていた。ただ、ここ最近の20年についてまとめた資料が有りませんでした。ドッグイヤーのこの時期、20年分の資料がないようでは、活動成果が分からなくなると危惧しました。そこで、何とか今のうちに資料を集めようということで皆様にも随分ご協力いただきました。特に専門委員会の人たちにしっかり協力していただいて、この20年間の知財の活動はこうだったということを冊子とCD-ROMにまとめることができました。これはいい時期に活動させていただけたなと思っております。

時間の関係もありますが、あとは中小、外部への意見発信等々を行いました。

8ページは会員数の推移ですが、昔は良かったと近ごろ思うようになりました。特に昨年秋以来の急激な変化から見ますと、ここに載っているグラフからは、かつて日本は右肩上がりだったということが分かります。右肩上がり一番端っこが去年で、会員数も伸びていました。先ほど中山さんが、今は1,182社と言われました。昨年度は1,184社で、今よりも会員が多かった時代に私に対応することができて幸せだなと思っております。

## 本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します

最後になりますが、研修生は、臨時コースは減りましたが定例コースの方はグラフにありますように伸びてきております。

以上で、業務の決算報告を終わります。

予算執行状況については中山さんに説明いただきたいと思います。ポイントだけ言いますと、昨年は戦略的に赤字予算を組みました。8,500万円赤字という予算を組んだのですが、最終的には2,300万円ぐらいの赤字で済みまして、実質的には予算に対して範囲内で行えたと思っております。

予算については中山さんをお願いします。

